

そんなり通信 vol.89



地域活動支援センターMネット 広報誌 H29年2月号

発行者：社会福祉法人Mネット東遠 地域活動支援センターMネット

菊川会場：菊川市本所 1407-4 TEL0537-28-9716

小笠会場：菊川市赤土 1660-1 TEL 0537-73-1020 FAX0537-73-1034

1月のサロン活動

1月17日（火）【100円食堂：焼きそば、おしるこ】

新年最初のサロンは焼きそばとおしるこ♪炭水化物×炭水化物という、正月太りを加速させるようなメニューでした。今回初めて参加したメンバー、久しぶりに参加したメンバーが多く、少しずつ100円食堂がメンバーへ周知されてきているように感じました。また毎回調理サロンに参加しているメンバーの料理の腕前が上がっています！



1月20日（金）【初詣：法多山】

毎年恒例のMネット初詣♪本堂へ続く長い長い道のりは運動不足の方にとってはとっても辛い道りでした。急な階段は何回も休憩しながら、みんなで励まし合って登りました。お参りを済ませ、おみくじを引き、「人生で初めて大吉が出た！」と喜んでいる方もいました。もちろんお土産には厄除けだんごを買って帰ってきました。今年1年サロン活動が無事におこなえますように…。



2月のサロン予定

2月のサロンは以下の内容で行ないます。

日にち：2月6日（月）

内容：100円食堂（から揚げ定食）

時間：9：00 赤土集合、出発

9：30 プラザけやき南口集合。12：30 終了予定

場所：プラザけやき栄養指導室

持ち物：材料費100円、エプロン、帽子・バンダナなど髪を隠せるもの。

※ご飯を食べるだけの参加でもOK♪

11：20 赤土出発、11：45 食事、12：55 赤土帰着予定。

日にち：2月21日（火）

内容：家山梅園、足湯

時間：9：00 赤土出発 9：30 プラザけやき出発

10：30 家山梅園到着、散策。川根温泉へ移動（車で5分）足湯。

12：00 川根温泉内にて昼食、12：45 川根温泉出発 14：00 帰着予定。

場所：家山梅園、川根ふれあいの泉（島田市）

持ち物：昼食代（事前にお弁当を購入又は川根温泉内の食事処にて昼食）

足湯に入る方はタオル

M ネット東遠の新年会がおこなわれました

1月19日（木）掛川グランドホテルにて、M ネット東遠新年会が開催されました。当日は掛川市松井市長、御前崎市鴨川副市長を始め、日頃M ネット東遠の活動にご支援、ご協力をいただいている方をお招きし、作業所利用者と職員総勢130名程の盛大な新年会となりました。毎年恒例となっている、各作業所の出し物では、合唱やハンドベルの演奏、昨年作業所で起こった出来事を川柳にまとめたりと、各作業所の特徴を生かしたものになりました。



コラム

障害者の地域支援を考える・1

1. 障害についての捉え方

今回のお話は、精神障害のなかで統合失調症について触れてみたいと思います。

その前に「障害」とは、どういうことなのかということと一緒に考えていきたいと思います。私がメガネを掛け始めたのは4年前です。車を運転していて対向車のナンバーや道路標識が見えにくくなってきたんです。しかたなくメガネを掛けるようにしました。そうしたらよく見えるようになりました。でも、メガネを外すと景色や文字が見えにくいんです。メガネを掛けている方ならこういう経験はありますよね。

そこで、私たちは普段、目の不自由な人や車椅子で生活している方などを見ると外見から、障害者だと思ってしまいがちですが、メガネを掛けている人を見たときに、「あっ、あの人、障害者」と、意識することはないと思います。でも、メガネを外したら不自由だし不便ではありませんか。私もメガネを掛けるようになって気づいたのですが、視力が衰えるということは生活していく上で非常に不自由で不便です。

視力が衰えて、普通の生活に支障をきたすようになることはある意味で障害です。けれどもメガネを使えば普通に生活ができるため不自由さや不便さはあまり感じないわけです。

けれどもどうでしょう。視力は元に戻らないわけですから、メガネという道具がなければ障害です。この元に戻らないことを専門的な言葉でいうと「不可逆性」といいます。障害のこういう見方を「医学モデル」といいます。ところがメガネという道具を使って、ある種の補助手段を使えば、普通の生活ができて障害をあまり感じない。車椅子の方も同じように、車椅子という道具を使えば普通の社会生活ができるという考え方を「生活モデル」と呼んでいます。この生活モデルと呼ばれる障害の捉え方は、1980年代ころから広まり始めました。国際障害者年は、そういう運動のまさに展開期でノーマライゼーションという理念のもと「完全参加と平等」ということで、わが国でも障害者の社会参加を目指した活動が進められてきています。

